

一郡龜鑑

謁史



周行不殆

無恙

頃者牙山郡に於て郡誌の編纂成る、大凡郡勢を輯むるものは概ね數字統計の羅列に止まり名勝史蹟等を紹介するもの極めて稀なり然るに吾牙山郡誌にありては獨り其選を異にし諸般の行政狀況は固より産業統計等載して餘す處なく加ふるに郡内の名勝古蹟及古戰場等の位地及び史實を解説し而かも行文平易筆致輕妙讀者をして自ら熟讀を禁ぜざらしむ、大凡牙山郡を知らんとする者にありて無二の刊行と云ふべし敢て禿

筆を呵して卷首に序す。

昭和四年十一月

朝鮮京南鐵道株式會社

取締役副社長

秋本豐之進

屯浦普通學校長

上村 治 八

△溫泉遊記を寄せられたる

湖南日報社

秋芳 千萬人

諸氏の盡されたる其の勞を多とし偉大なる功績に對して敬意を表し
△本會事業を後援して今日あらしめたる

京南鐵道株式會社副社長秋本豐之進氏に對しては滿腔の謝意を表するのである。

昭和四年十月下浣

牙山郡教育會副會長

編者 兩 角 恒 一 識す

序

地方行政に携はる吾人は先づ以て其の地方を知る必要がある。其の地方を知らむには過去の史實を探究し民度の變遷を稽へ現在文化の實狀を審かにし之を基調として將來の趨向を察知するに在る、而して之により諸般の施設經營を策するは實に吾人牧民の要諦である。それと同時に之を記録して後世に遺し其の真相を天下に紹介し地方開發に資することは亦吾人の重要な使命であらねばならぬ。

我が牙山郡の溫陽溫泉は李朝五百年の昔より既に其の名を知られたる半島唯一の靈泉であり又牙山の地は我が日本帝國が列強に伍し國際舞臺に第一步をふみ出した彼の日清戰役に清兵と對陣して陸戰の火蓋を切つた古戰場として知られて居る、殊に最近の溫泉設備と産業經濟の發展の如きは京南鐵道が群山對岸への進出を控へ將に一大革命を起し凡有の事象悉く舊態を脱し面目を一新せむとする氣勢を示して居る。

然れども斯の牙山郡の郡情に就ては今日まで何一つ纏つた記録のないのは常に遺憾として居つた處である。幸にして爰に好き機會を得たるを以て郡勢の概要を記述編纂して世に公にすることにした。

素より吾人は専門的學究の智識に乏しく隨て其の研究の如きは極めて淺薄であり且つ公務の餘閑を得て之を記述した關係上その内容が空虛であることは今更申すまでもない。要は唯本書により此の牙山郡が如何なるものであり、今日迄どんな經路を辿つて來たかを知る上に於て幾分たりとも參考となり得るならば望外の幸である。卑作を顧みず之を江湖に頒ち賢哲の高教を仰がむとす敢て卷頭に一言を序し讀者の諒を乞はむとするのである。

昭和己巳仲秋

牙山郡教育會長

牙山郡守

李

敏

寧

識

凡 例

○本書は我が牙山郡全般の狀勢を知らとする人の爲に郡の大勢を鳥瞰的に描寫したものである、故に郡勢の大要を主眼とし次に史實に及び之に名勝舊蹟を併記することにした。

○溫陽溫泉は本郡文化の中樞であり將來も之を中心として伸展し行くものである以上溫泉の持つ歴史的事實と現在の狀況は出來得るだけ詳細に之を記述して此の地に來遊する人の便を圖ることに努めた。

○牙山の戰蹟、水將李舜臣の事蹟、志士金玉均の事蹟及神井館の設備等は本郡のみが有する誇りであり又何人も知らねばならぬものと考へ資料の蒐集に最善を盡した。

○各種の統計は昭和三年末に於ける現在で牙山郡廳の公表したものである。

○本書は諸方面から資料を蒐めたと、其の出所を明かにし且つ原作の表意を損せざる爲

文體區々に涉りたるは已むを得ざる次第であることをお斷りして置く。

○例年牙山郡に於て刊行する郡勢一班は本書の内容を爲して居るが爲め本年は之が刊行を見合せ本書を代用することにされた。

○本書は朝鮮博覽會の會期中に完成せむと計畫したる爲編輯技術や其の内容に幾多の不備あることを發見した、後日増補改訂して所期の目的に副はむとする覺悟である。

○本書の刊行に就き

△資料蒐集上特に指導せられたる

前朝鮮軍司令官金谷陸軍大將に對しては深甚の謝意を表し

△分擔執筆せられたる

溫陽普通學校長

小林 權 作

牙山普通學校長

坂 本 強

牙山郡誌

目次

一、牙山郡沿革·····	一
1 舊牙山郡沿革·····	一
2 舊溫陽郡沿革·····	二
3 舊新昌郡沿革·····	二
二、牙山郡位置及廣袤·····	五
三、牙山郡地勢及地味·····	五
四、牙山郡行政區劃·····	六
五、牙山郡氣象·····	七

六、牙山郡戶口.....九

1 現住戶口.....九

2 職業別戶口.....二一

3 主要地戶口.....二二

4 人口動態.....二三

七、教 育.....一四

1 小學校.....一四

2 普通學校.....一四

3 實業補習學校.....一五

4 學術講習會.....一六

5 書 堂.....一六

八、宗 教.....一七

1 寺 刹.....一七

2 教 會.....一七

九、土 地.....一八

1 國 有 地.....一九

2 民 有 地.....二〇

イ 課 稅 地.....二〇

ロ 非 課 稅 地.....二一

ハ 土 地 賣 買 價 格.....二三

一〇、農 業.....二五

1 耕 地 面 積.....二五

2	農業者	三五
3	農產物	二六
4	重要農產物優良品種	二八
5	重要農產物累年比較	二九
6	果樹	三〇
	一一、蠶業	三一
1	桑田反別	三一
2	養蠶狀況	三二
3	稚蠶共同飼育狀況	三三
4	繭共同販賣狀況	三三
5	家蠶絲及蠶種製造狀況	三三
6	桑苗生產數	三四

7	乾繭器設備狀況.....	三四
8	蠶具共同購入狀況.....	三五
二、棉	作.....	三五
1	陸地棉作.....	三五
2	模範作圃.....	三五
3	指定里洞.....	三六
一三、畜	産.....	三六
1	家畜家禽.....	三七
イ	牛.....	三七
ロ	馬類及羊.....	三七
ハ	豚.....	三八

ニ 鶏	三六
2 畜牛の賣買	三八
3 種 牛	三九
4 乳用牛	四〇
5 養 蜂	四〇
6 畜産物	四〇
一四、林 業	四一
1 林野面積	四一
2 造 林	四二
3 苗 圃	四三
4 林産額	四三
一五、水 産	四四

1	漁業者漁船及漁具數	四四
2	主要漁獲物	四五
3	漁業別漁獲高	四五
4	水產製造物	四七
一六、商工業		四七
1	會社	四七
2	工場	四八
3	市場	四八
4	工產物	四九
一七、振興會		五一
一八、交通		五二

1	自溫泉里至各地里程	五二
2	道、郡廳間の距離	五三
3	道路	五四
4	鐵道	五四
5	自動車定期運轉區間	五五
6	陸上運搬具	五五
一九、産業團體		
1	郡農會	五六
2	畜産同業組合	五七
3	森林組合	五八
二〇、官公署		
		五八
二一、職員		
		五九

1	郡	五九
2	面	五九
	二、財 政	六〇
1	國 稅	六〇
2	地 方 稅	六一
3	面 豫 算	六二
4	學 校 費 豫 算	六四
5	學 校 組 合 豫 算	六六
6	水 利 組 合 豫 算	六八
	イ 溫 陽 水 利 組 合 豫 算	六八
	ロ 道 高 水 利 組 合 豫 算	六九
7	鄉 校 財 產 豫 算	七〇

8	直接税負擔額	七一
二三、	溫陽溫泉	七五
1	位置	七五
2	沿革	七五
3	由來	七六
4	地形	七七
5	地質	七七
7	泉溫	七七
7	泉質	七八
8	湧出量	八〇
9	氣候と溫泉との關係	八〇
10	地質構造と溫泉との關係	八〇

二四、	溫陽溫泉案内……………	八一
1	神井館由來……………	八三
2	定量分析……………	八四
3	醫治効用……………	八五
二五、	神井館案内……………	八七
1	本館……………	八七
2	旅館部……………	八七
3	附屬遊園地……………	八七
4	特有料理……………	八八
イ	野菜料理……………	八八
ロ	川魚料理……………	八八
ハ	溫泉みやげ……………	八九

5	各種料金	八九
A	本館入場料	八九
イ	普通入場料	九〇
ロ	割引入場料	九〇
B	専用貸間	九一
C	専用貸湯	九二
D	水中樓閣入場料	九二
E	貸船料	九二
F	旅館部料金	九四
イ	宿泊料	九四
ロ	室料	九四
ハ	定食料金	九五

二六、	溫陽溫泉行汽車賃割引	九五
二七、	直通客車の運轉	九六
二八、	溫陽溫泉驛汽車及自動車發着時刻表	九七
二九、	其他の旅館	九八
三〇、	溫陽溫泉遊記	一〇一
三一、	漫遊を中心とする溫陽溫泉附近	一二九
1	靈槐臺	一二九
2	陸軍療養所	一二〇
3	野球場及庭球コート	一二〇
4	辨天地	一二二
5	果樹園	一二二
6	孝子岩	一二二

7	松林	二四
8	溫陽邑内	二四
9	雪華山	二五
10	伏釜城	二五
11	杏臺	二七
12	觀善齋	二七
13	砂器所	二九
14	鳳谷寺	三二
15	燕岩山	三二
16	鶴城山	三二
17	新昌公立農業補習學校	三三
18	李舜臣の墓及事歴	三九

イ	巨濟島の海戦……………	一四三
ロ	長門浦……………	一四五
ハ	閑山島……………	一四六
ニ	鳴洋峽の戦……………	一四六
ホ	順天海上の戦……………	一五四
ヘ	順天城の戦……………	一五五
ト	露梁の戦……………	一五五
チ	袁李統制……………	一五八
19	屯浦……………	一五八
20	牙山邑……………	一六〇
21	白石浦……………	一六三
22	貢税里……………	一六五

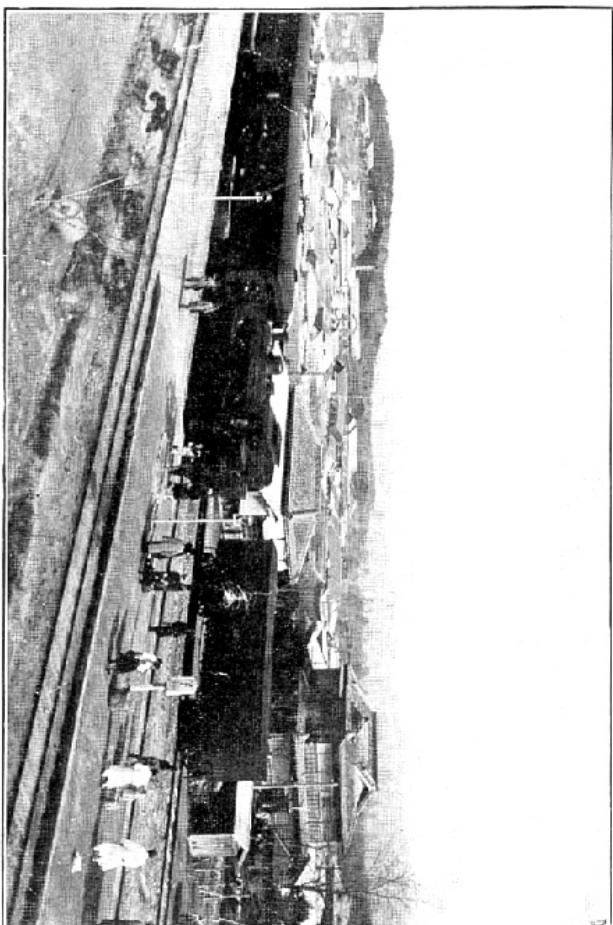
23	郡名山	一六五
24	兄弟松	一六六
25	原田農場	一六七
26	傑梅里製鹽場	一六七
27	牙山戰と白石浦	一六九
1	戰前に於ける清軍	一六九
イ	大沽に於て國南號による渡韓兵	一六九
ロ	山海關に於ては海晏、海定の兩船によるもの	一七〇
2	日本混成旅團の南進	一七五
3	成歡の戰鬪	一七八
4	牙山の戰鬪	一八二
5	歸還	一八五
6	末尾	一八六

7	附 長岡將軍談	一八七
28	金玉均	一八九
1	金玉均年譜	一八九
2	古筠金玉均事歴	一九一
イ	金玉均始めて日本に來る	一九一
ロ	金玉均の再遊	一九三
ハ	日本の對韓策の一變	一九六
ニ	斬姦の韓廷の廓清	二〇五
ホ	清兵の來襲と改革の失敗	二〇八
ヘ	獨立黨失敗の原因	二一〇
ト	亡命中の金玉均	二一四
チ	金玉均の横死と東邦變局の動機	二一五
リ	金玉均屍體の所置と國論の沸騰	二一八

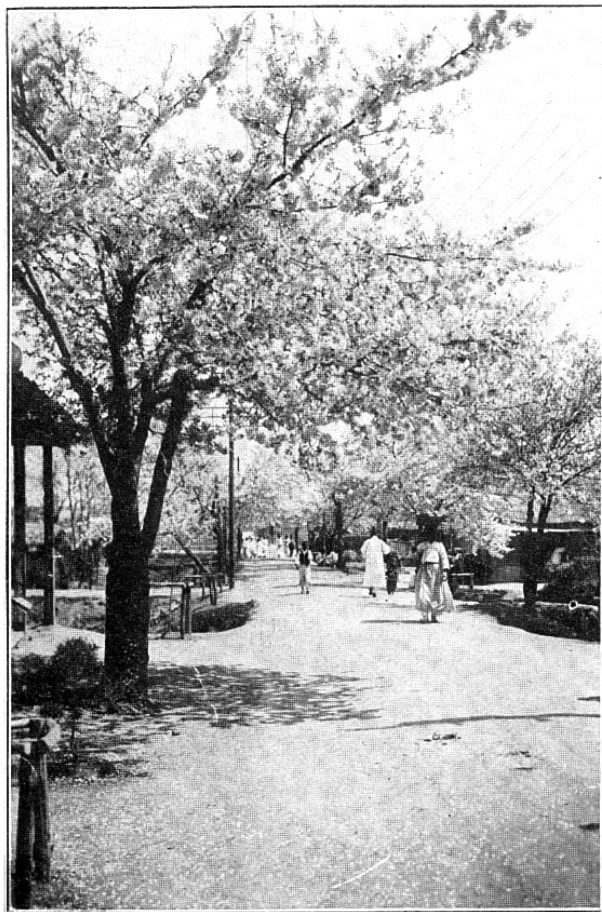
以上



牙山郡廳正門



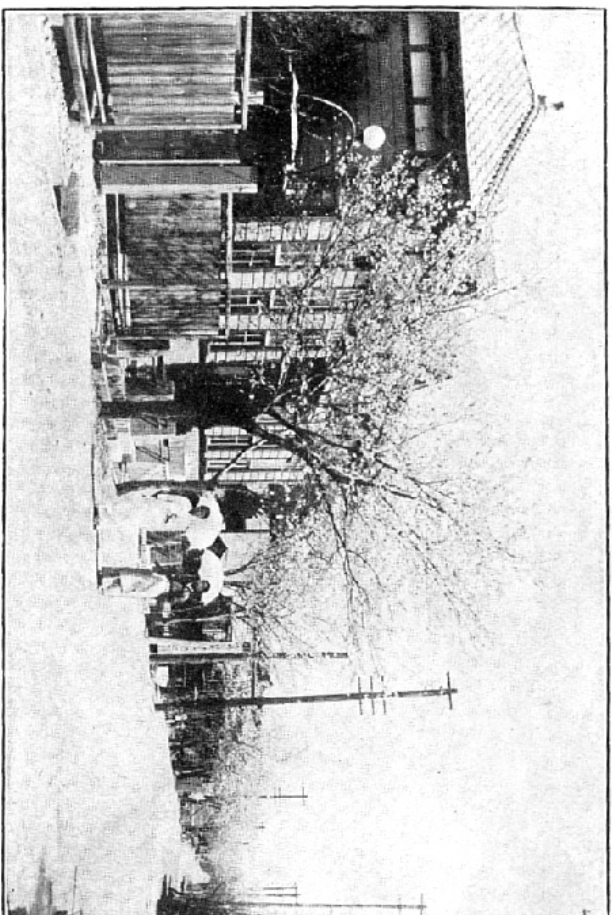
溫陽溫泉街全圖



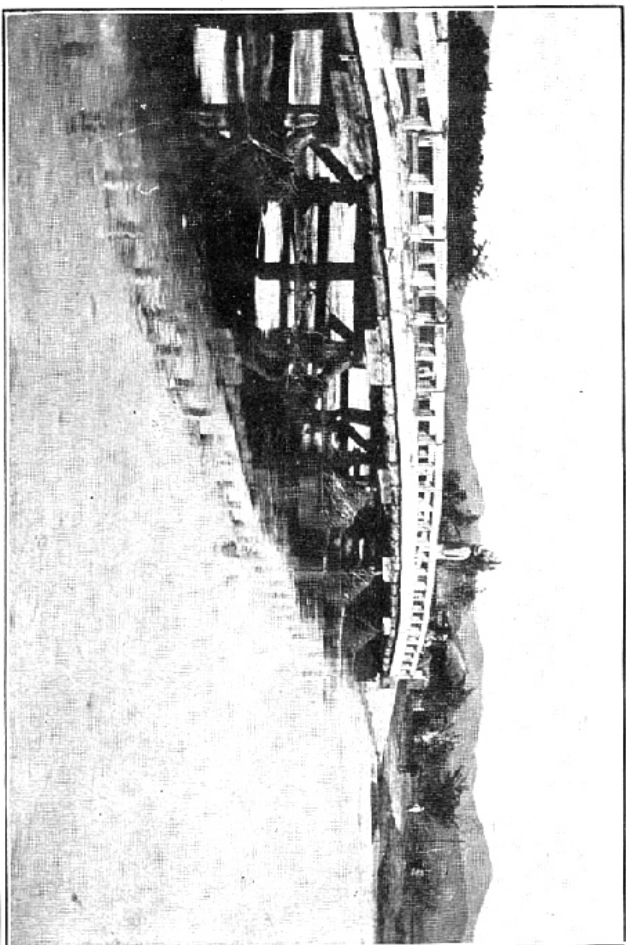
泉 温 陽 温 の 櫻



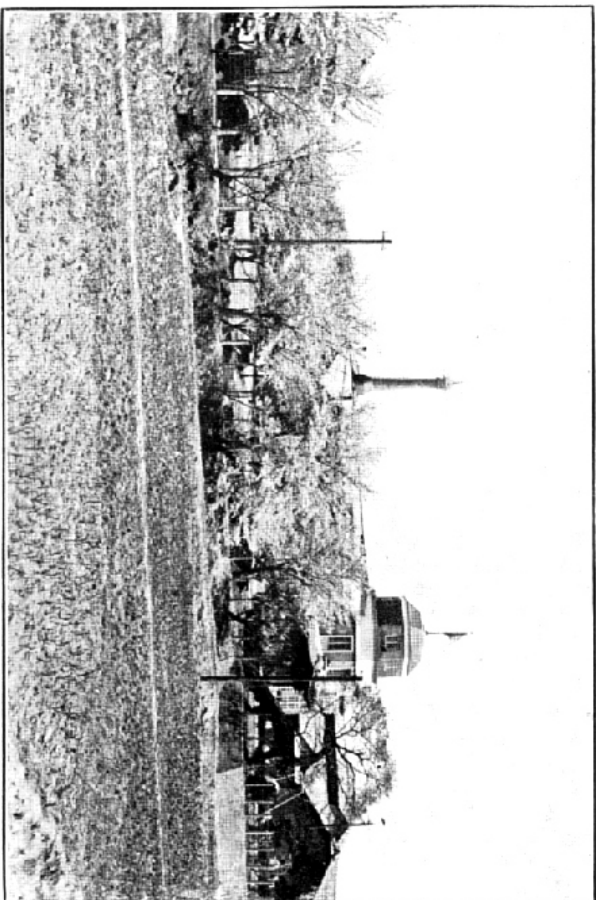
大 神 宮



瀬田金相合と櫻



曲 橋 川 の 景



溫陽溫泉館全景



場 濯 洗 の 用 利 物 廢

一、牙山郡沿革

忠清南道牙山郡は大正二年十二月二十九日朝鮮總督府令第百十一號を以て牙山、溫陽、新昌の三郡を合併し大正三年三月一日牙山郡と定め郡廳を溫陽面溫泉里に置かれ今日に及べり。

合併前の各郡沿革を附記すれば左の如し。

(1) 舊牙山郡沿革

百濟時代の牙述縣にして新羅の朝に至り陰峰（一名陰峯）と改められ湯井郡領となり高麗の初めに於て仁州と改む。

成宗十四年刺史を置く、穆宗八年之を廢止し顯宗九年天安府に屬し其の後牙州と改め監務を置かる。

李朝太宗十三年に牙山と改め懸監を置く、世宗五年縣を廢せられ溫陽、平澤、新昌の

各郡に分屬す。同十一年復燕山乙丑京畿道に移屬し、中宗の初め舊に復し牙山縣となす近世郡に陞し合併當時に至れり。

(2) 舊溫陽郡沿革

百濟時代の湯井郡なり。

新羅文武王州となして總管を置く、後州を廢して郡と爲す、高麗の初め溫水郡に改め顯宗九年天安府に屬し明宗二年監務を置く。

李朝太宗十四年新昌を併せて改めて溫昌と號したるも同十六年分離して溫水縣を置く世宗大王十四年に至り溫陽郡と改稱せられ以て郡廢合の當時に及べり。

(3) 舊新昌郡沿革

百濟時代の屈直縣にして新羅の時祈梁と改めて湯井郡領の縣となり高麗の初め新昌縣と改稱す。

顯宗九年天安府に屬せり、恭讓王三年城を縣西獐浦に築き溆城と號す。

李朝太宗十四年溫水を合して溫昌と號せり、同十六年復々之を分ちて縣監を置き新昌の名に復す、近世郡に陞し以來繼續して郡廢合當時に至れり。

二、牙山郡位置及廣袤

牙山郡は標高一八米北緯三六度四七分東經一二七度にして、忠清南道の北端に位し東は天安郡に接續西は挿橋川を隔てて唐津郡と相對し、西南は禮山、公州の二郡に隣し、西北牙山灣に面して北方京畿道振威郡と境す。

東西七里二十町、南北八里二十四町、面積三五方里餘あり。
郡廳は郡の中心地たる溫陽面溫泉里にあり。

三、牙山郡地勢及地味

郡の東方一部は山岳丘陵の連亘するものありと雖も、概ね低丘にして峻嶮ならず、南部亦峯巒重疊し、稍々見るべき森林を有す。

其他所々に山陵の點々起伏するあるも曲橋川の流域一帯及西北牙山灣に沿ひたる、一帯

の如き展望廣く平野を成し本道屈指の農産地たり。

而も曲橋川は郡の中央を横斷し郡界を貫通せる挿橋川と合して牙山灣に注ぎ、之が支流數條に及び何れも灌漑の利に富み、尙ほ該幹川の下流及び西郡界を劃せる、挿橋川の下流は最も舟楫に便あり。

地味概ね肥沃にして米、麥、大豆等の耕作に適し山野亦殖林及牧畜の利用に適當せりと雖も水源の涵養充分ならず旱水害の患を免かれざる箇所あり。

今後水利組合の設立するの要あり。目下溫陽水利組合、道高水利組合等あれども尙不足を感ず。

四、牙山郡行政區劃

五、牙山郡氣象 (昭和三年)

面名	面事務所在地	面積	町洞里數	面名	面事務所在地	面積	町洞里數
溫陽面	邑內里	二、二〇〇 ^{方里}	二三	靈仁面	牙山里	三、四三五 ^{方里}	一三
松岳面	驛村里	三、七八	二三	仁州面	貢稅里	三、六九九	一三
排芳面	中里	二、九八	二三	仙掌面	君德里	二、三六三	一五
湯井面	龍頭里	二、二六	一〇	道高面	鄉山里	二、八六八	一六
鹽峙面	鹽星里	二、六七	一四	新昌面	邑內里	二、八八九	一五
陰峰面	三互里	三、九〇三	一六	計		三、四四五	一三
屯浦面	屯浦里	二、六八〇	一五				

種別	月次	(氏攝)										合計	平均
		極		均平		溫		氣		平			
		日	最低	日	最高	最低	最高	最低	最高	午前 十時 均	平		
晴天日數	雨、雪日數	八	一七	二七	二八	二〇	一四	一〇	一三	四・三	一・五	一	一・二
八	五	七	二二	二〇	二一	一七	一〇	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
七	七	七	一九	二〇	二二	一五	一四	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
九	一三	八	二三	二四	二五	一六	一五	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一三	一八	一六	二七	二八	二九	一七	一六	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
二一	二六	二七	三〇	三一	三二	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
二六	三一	三二	三三	三四	三五	一九	一八	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一三	一七	一八	一九	二〇	二一	二〇	一九	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一五	一九	二〇	二一	二二	二三	二一	二〇	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
九	一三	一四	一五	一六	一七	一七	一六	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五
一〇	一四	一五	一六	一七	一八	一八	一七	一〇	一〇	一・五	一・五	一	一・五

[illegible]

六、牙山郡戸口（昭和三年末）

(1) 現住戶口

溫 陽	面 名		內 地 人		朝 鮮 人		外 國 人		合 計		一 方 里 當		一 戶 當
	戶 數	人 口	戶 數	人 口	戶 數	人 口	戶 數	人 口	戶 數	人 口	戶 數	人 口	
	一三二	五四七	一、七六五	八、五三二	一六	四六	一九三	九、一二四	九〇六	四、三四		四、八	

松	排	湯	鹽	陰	屯	靈	仁	仙	道	新
岳	芳	井	峙	峰	浦	仁	州	掌	高	昌
二	六	三	六	二	八	一四	四	九	一四	一五
六	二七	一二	二〇	四	一八	五六	一五	二八	四七	四四
八六五	一、三三八	一、二五	一、一〇六	一、一三七	一、二二三	一、一三三	一、〇〇六	一、〇五五	一、一〇五	一、一〇七
六、八二六	七、一八八	六、三四六	五、五〇六	六、四二〇	六、〇八一	六、三七	五、九四〇	五、七三	六、一六六	七、一〇三
一					一五		二	六	四	三
					三		二	二〇	二	六
八六七	一、三四四	一、二八	一、一二	一、〇三九	一、二三六	一、二四六	一、〇一二	一、〇七〇	一、一二三	一、三三五
六、八三三	七、二二五	六、三五八	五、五五六	六、四三四	六、一三〇	六、五九三	五、九六七	五、七七	六、二五五	七、一五二
二三三	四五四	五二〇	四一六	二六六	四六一	三六四	二七六	四零三	三九二	四六二
一、八四三	二、四四〇	二、九三三	二、〇六五	一、六四六	二、二八七	一、九二五	一、六二三	二、四四三	二、二八一	二、四六六
八、〇	五、三	五、六	五、〇	六、二	四、五	五、三	五、八	五、五	五、五	五、四

計	二四	八二四、一四〇、五四八、四〇六	四六	二一七、二四、三二四、七九、三四七	四〇四	二、三三九	五、五
---	----	-----------------	----	-------------------	-----	-------	-----

(2) 職業別戸口

種 別	内地		朝鮮人		外国人		計	
	戸 數	人 口	戸 數	人 口	戸 數	人 口	戸 數	人 口
農林牧畜業	三七	一八〇	二、一六〇	六、八七三	一	一	二、一九八	六七、〇五三
漁業及製鹽業	一	一	三	一八八	一	一	三	一八八
工業	七	六七	三五	二、〇二五	一	一	二二三	二、〇九三
商業及交通業	五四	二五五	四三	三、三三〇	四	二五	五七一	三、八九〇
公務及自由業	一〇三	二六九	二七〇	一、六三二	一	一	三七三	一、八九二
其ノ他ノ有業者	五	二二	五三	一、七七七	一	一	五〇七	一、七九八

無職業及職業 申告セザルモノヲ 合計	三 九	三 三	三 九	二、四 三	一	一	四〇 一	二、四 三
	二四	八四	一四〇	七六、四	四六	二七	一四、三	七九、四

(3) 主要地戸口

地名	内地人		朝鮮人		支那人		其他ノ外國人		計	
	戸數	人口	戸數	人口	戸數	人口	戸數	人口	戸數	人口
溫陽面邑内里	七	三	三六	一、七六	四	一三			三七	一、八〇
同 面溫泉里	一五	四八	三七	一、六四	二	三			四九	二、一〇
屯浦面屯浦里	八	六	一八〇	八八	五	三			二〇	九三
靈仁面牙山里	一四	五	二六	一、〇八					二〇	一一四
仁州面貢稅里	三	一四	二九	一、〇九			一	一	二三	一、三三

(4) 人口動態

仙掌面君德里	新昌面邑內里
八	六
二四	二
一四〇	一〇三
六九二	五八三
六	二
二〇	三
一	一
一五四	一〇
七三五	五九九

種別	出生		死		結婚	離婚	配偶數
	男	女	男	女			
內地人	四	六	二	三	一	一	一九九
朝鮮人	一、四九五	一、三四三	八四八	七二一	九三五	二三四	八三五
外國人	一、四九九	一、三四九	八五〇	七二四	九三五	二三五	〇三九
計	二、八四八	二、八四八	一、五五九	一、五五九	二、一五九	二、一五九	二、一五九

七、教 育 (昭和三年度)

(1) 小 學 校 (教員欄中×印ハ嘱託△ハ講師ヲ示ス)

校 名	所在地	學級數	教員數	生 徒 數	昭和三年度經費
溫陽公立尋常高等小學校	溫陽面	三	× 一一二	男 五九 女 五七 計 一一六	八、五三七
溫陽公立尋常小學校	溫泉面	一	△ 一一一	男 二 女 七 計 九	一、二六〇
牙山公立尋常小學校	牙山面	四	× 一△ 三	男 六二 女 六四 計 一二五	一、五〇二、七八七
計			計 五	男 九三 女 五八 計 一五二	

(2) 普 通 學 校 (教員欄中×印ハ嘱託ヲ示ス)

校 名	所在地	年修業限	學級數	教員數	生 徒 數	昭和三年度經費
溫陽公立普通學校	溫陽面	六	一三	× 一三	男 五七三 女 一三九 計 七二二	五、五八
	邑内里				男 五三 女 五三 計 一〇六	六〇〇
					計 一三二	六〇〇

新 業 補 習 學 校	校 名	所在地	修業年限	學級數	教員數	生徒數		計	昭和三 年度經費
	新昌公立農 業補習學校	新昌里 邑內里	二	一	× 二	男	女	二	二、八一九

(3) 實業補習學校 (教員欄×印ハ兼務者本校ハ昭和二年五月設立)

計 七校	陰峰公立普通學校	松南公立普通學校	仙掌公立普通學校	屯浦公立普通學校	新昌公立普通學校	牙山公立普通學校
	三陰峰 巨里	松南 里	仙掌 里	屯浦 里	新昌 里	牙山 里
	四	四	六	六	六	六
計	四	二	四	五	六	八
×	四八	四七	二	四	五	七
	一、八五五	一〇一	一〇五	一七八	二八八	二六〇
	三三六	七	二四	二〇	五八	三三
	二、一九一	一〇八	二九	一九八	三四六	二九三
	一、八三三	四三	九三	一〇三	一七八	四八
	八五	三	一	一	五	一
	一、九一七	四六	九四	一〇三	一八三	四二八
				五九、 〇九八		

(4) 學術講習會

名 稱	所在地	教員數	講 習 生	計 徒	昭和三年 度經費	同上一人當 額
普成學術講習會	仁州里	一	四〇	四〇	三六〇	五、六五
白 岩 學 院	鹽峙里	一	三五	三五	四〇〇	二、五〇
新 明 義 塾	湯井里	三	五五	六九	四〇〇	五、一三
培英學術講習會	梅谷里	二	六〇	六〇	六五八	一〇、九七
計	禾川里	七	一八〇	二二〇	一、六八四	八、〇三

(5) 書 堂

八、宗教 (昭和三年末)

(1) 寺 刹

書堂數	教師數	生徒數		計	昭和三年 度經費	當一經書堂 經費	書堂一面平均 數
		男	女				
五〇	五〇	四七三	一	四七三	五、五二 円	一一、〇三 円	四 強

名	稱	所在地	僧	尼	計
五峰菴	溫陽面長存里	一			一
鳳谷寺	松岳面楡谷里	一			一
神心寺	鹽峙面山陽里	一			一
					三

九、土地 (昭和三年末)

名 稱	教會堂數	布 教 者 數				信 徒 數			
		內地人	朝鮮人	外國人	計	內地人	朝鮮人	外國人	計
基 督 教	六		五		五		二七		二七
天 主 教	一			一	一		九六		九六
佛 教	四		三	一	四	二五	一、二八		一、四四
計	二		三	一	四	二五	一、二八		一、四四

(2) 教會

仁 萃 寺	新昌面 邑內里	二	一	三
計 四ヶ所		二七	一	二八

(I) 國有地

地目	筆數	地積	地目	筆數	地積
田	1,033	143・562 ^{町步}	林	5,599	16,350・991 ^{町步}
畚	2,005	464・100 ^{町步}	墳墓	2	・2710
埜	383	24・201 ^{町步}	鐵道用地	1	・1・2935
埜	24	47・784 ^{町步}	鐵道線路	37	8・7136
雜地	38	5・335 ^{町步}	鐵道線路	1	・5621
河川	3	1・068 ^{町步}	社寺地	2	・1103
溝渠	16	18・956 ^{町步}	合計	8,946	17,292・516
溜池	13	273 ^{町步}			
堤防					

(3) 民有地

イ 課税地

地目別種別	田 畓					
	筆數	地積	地價	筆數	地積	地價
内地人	二、四三	五、三、八八二八	一七五、一五五、九六	四、二六九	一、〇五三、二四二八	六〇〇、一五八、五八
朝鮮人	二八、一〇	五、一五、一〇〇四	一、〇一三、〇九〇、二一	三、一四〇	一一、九五七、六三、二五	四、九八三、八三、九三
外國人	三七	八、五、二二三	二、五四〇、六五	一四七	七三、〇七一一	三六、五二五、七三
計	三〇、五五〇	五、七二七、五〇五	一、一九〇、七八六、八二	三七、五五六	一三、〇八三、九六〇四	五、六二〇、五〇七、二六

口 非 課 稅 地

合 計			雜 種 地			埕		
地 價	地 積	筆 數	地 價	地 積	筆 數	地 價	地 積	筆 數
八二五、四八八、一五	一、六〇〇、〇二三	七、四二六	三、〇九七、二九	一四、八二二	三四	三七、〇七六、三三	四八、九〇六	七二〇
六、二五六、一四七、三三	一七、七九一、五二一	六七、二六六	四、六一一、〇〇	二四、二三三	五二	二五四、六二三、一八	六五、五、四一八	五、九六五
三九、九〇三、〇五	八三、一八〇五	二二				八四五、六五	一、五八二	二八
七、一一一、五三七、五二	一九、五五四、七二九	七四、八九四	七、七〇八、二九	三九、二三四	八五	二九二、五三五、一五	七〇四、一一〇五	六、七〇三

種 別	上 等 地		中 等 地		下 等 地	
	價 格	地 價	價 格	地 價	價 格	地 價
地 目	筆 數	地 積	地 目	筆 數	地 積	
林 野	四、九五九	一二三〇・四二四 ^{町步}	公 園	七	・八一〇九 ^{町步}	
墳 墓	三六〇	一二四・五三〇	鐵 道 用 地	三六	六・四五〇四	
道 路	八四五	一七・〇二六	堤 防	三九	二・三三〇七	
河 川	八	三・一七〇〇	鐵 道 線 路	六四八	三七・三二八九	
溝 渠	一、二三四	四〇・六七五八	社 寺 地	八	二・二二〇二	
溜 池	三三二	八・二七五七	合 計	八、三八三	一六五九・〇二二	

田			畜			埜			雜		
種											
地											
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
九五・〇〇〇	七八・〇〇〇	六〇・〇〇〇	二四・〇〇〇	二〇・〇〇〇	一八・〇〇〇	九〇・〇〇〇	七〇・〇〇〇	五〇・〇〇〇	四〇・〇〇〇	二五・〇〇〇	二〇・〇〇〇
四八・〇〇〇	三九・〇〇〇	三〇・〇〇〇	八七・〇〇〇	八二・〇〇〇	七三・〇〇〇	一八・〇〇〇	一〇・〇〇〇	六・〇〇〇	三九・〇〇〇	三〇・〇〇〇	二〇・〇〇〇
五五・〇〇〇	四〇・〇〇〇	三三・〇〇〇	一五・〇〇〇	一四・〇〇〇	一三・〇〇〇	二一〇・〇〇〇	八〇・〇〇〇	五〇・〇〇〇	一八・〇〇〇	一五・〇〇〇	一三・〇〇〇
二二・〇〇〇	二二・〇〇〇	二二・〇〇〇	五七・〇〇〇	五二・〇〇〇	四六・〇〇〇	四〇・〇〇〇	三〇・〇〇〇	二〇・〇〇〇	二二・〇〇〇	二二・〇〇〇	二二・〇〇〇
一〇・〇〇〇	一五・〇〇〇	一〇・〇〇〇	七・〇〇〇	五・〇〇〇	四・〇〇〇	四〇・〇〇〇	三〇・〇〇〇	二〇・〇〇〇	一三・〇〇〇	一〇・〇〇〇	—
四・〇〇〇	四・〇〇〇	一・〇〇〇	一八・〇〇〇	一三・〇〇〇	一〇・〇〇〇	一五・〇〇〇	一二・〇〇〇	九・〇〇〇	四・〇〇〇	一・〇〇〇	—

地種雜 垡 畚 田

—(24)—

10. 農 業 (昭和三年)

(1) 耕 地 面 積 (反)

畝			田	合 計	農家一戸當 耕地面積
一毛作	二毛作	計			
一三、三七九	一、八一九	一三、五九八	五、八七一	一九、四一〇、一	一〇、七六

(2) 農 業 者

自作			小作			別 面 積	計
自作兼小作ノ自作	自作兼小作ノ小作	自作	自作兼小作ノ自作	自作兼小作ノ小作	自作		
畝	田	畝	田	畝	田	畝	田
一、七〇三、六	一、五二二、五	二、九五〇、六	一、一四四、五	一、〇七九	一、〇三五、六	七、六七八、七	二、三〇八、五
						一三、四六、四	五、八七一、二

(3) 農 產 物

農業者數		農 家 戶 數		耕 作 別 戶 數	
專 業	兼 業	地 主	自 作	自作兼小作	小 作 計
六九、三四三	九、六八四	一、二七二	一〇、九五五	二九三	四九八
				二、〇六六	八、〇七八
					一〇、九五五

種 類		反作別付		收 高		收穫高	
米	陸 粳	米	米	米	米	米	米
計	陸 米	粳 米	粳 米	計	陸 米	粳 米	粳 米
一三、五一三、五	三、八七、八	五、六七、三	二、六五、四	一〇、三二四、三	一〇、九、三七七	六六三	七五四
種 類		反作別付		收 高		收穫高	
麥	大 小	麥	麥	麥	麥	麥	麥
計	大 麥	小 麥	大 麥	計	大 麥	小 麥	大 麥
四七、八七、二	三、九六、九	八五、六、二	二、四、一	三、七、〇五三	四、三八五	一六三	七二二

雜穀		豆							
黍	稗	粟	計	其他	落花生	豌豆	菜豆	綠豆	小豆
二、五	九、一	一五、七	四二九、二		五	五、三	一五、四	一四七、三	四四六、三
五八	三九	七二七	一八、五五三		一	一〇	二八	四五三	一、六五三
五四	四二八	四七三			二〇〇	一九八	一八二	三〇七	七七
特用作物									
甘藷	苧麻	荏苳	胡椒	莞草	苧麻	大麻	陸地綿	蕎麥	玉蜀黍
二、三	一四、八	三八、一	六〇、四	五三、二	四、九	四三、〇	五七〇、二	七一、五	二九、二
四九、六六〇	五一	五三	三〇四	一三、〇八〇	一二七	六、九三二	六〇七、四七六	四二六	一五〇
二三、二	三五、一	三九六	五〇〇	二五	四	一六	一〇七	五、八一	五、一三
							斤		四、五三

(4)

重要農産物優良品種

蔬菜			
薯鈴馬			
計	種在來	種優良	優良
四八、七	四、五	四四、二	
一〇八、六〇〇	八、四五〇	一〇〇、一七〇	
一	一七〇、〇	二四九、二	
甜白蘿			
瓜	菜	苣	苣
二〇、四	一七六、九	一七五、四	
二九六、二七〇	三九七、九四〇	三九、一四五〇	
二六八、三	二三四、四	二三三、三	

種類			
反作別付			
收穫高			
收一反當			
種類			
反作別付			
收穫高			
收一反當			

水稻			
中	穀	多	早
生	良	摩	神
神	都	錦	力
力			
一四、一	二六三六	五四七、六	五九八、三
二九	二、一五七	四六、三四六	四六、六七二
八四三	八三	八四六	七七六
麥			
小	江	大	ト
麥	カ	麥	ン
ル	リ	計	ボ
ニ	フ		リ
ヤ	オ		
二、四	一八五八	二、四六、五	二、四六、五
二四	一二七九	一六、三二	一六、三二
五八〇	六三四	七五六	七五六

(5)

[illegible]

(6) 果 樹

大正十四年	大正十五年	昭和元年	昭和二年	昭和三年
三、三三、九	三、二五、三	三、二五、三	三、六四、六	三、五二、五
五、二〇三、九	五、一九四、二	四、七三、一	四、七五九、五	四、二九、三
四、〇四一、六	四、〇三三、四	三、九六六、〇	四、二二九、三	二九、三七
一三、四〇八	二八、二五九	二四、九八九	一〇九、三七	三、三七
四、七三七	四、〇〇七、四	四、三三三	三、三七	一八、五五三
三、四二一	三、〇一〇	三、四八五		

品 種 名	栽 培 樹 數	收 穫 高	品 種 名	栽 培 樹 數	收 穫 高
紅 玉	六五〇本	七五〇貫	祝 玉	四〇〇本	四九〇貫
國 光	一、三〇〇	一、五〇〇	柳 玉	四五五	四五〇
倭 錦	六七〇	一、五〇〇	旭 計	三、九二五	六〇〇
苹 果					八、二九〇

梨		
明	晚三吉	長十郎
三〇〇	七〇〇	一、二五本
一六〇	三八〇	七五〇 _質
計		
西洋梨		
三、四〇〇	三〇〇	一、〇二五本
三、八八〇	三〇〇	八五〇 _質

一、蠶業 (昭和三年)

(1) 桑田反別 (畝)

既設桑田			新設桑田			合計		
本反別	見積反別	計	本反別	見積反別	計	本反別	見積反別	計
三九四、六	一、六七七、七	二、〇五二、三	一七、〇	四、〇四〇、〇	六〇六、〇	五七〇、六	二、〇八七、七	二、六五八、三
						山桑利用見込反別		
						一		

イ 右 内 譯

2 養蠶狀況

根刈桑田		中刈及高刈桑田		立通桑田		合計
本反別	見積反別	本反別	見積反別	本反別	見積反別	
五七、六	—	—	—	—	三〇八、七	二、六六、三

區別	桑田反別	飼育戸數	蠶種 立枚數	繭產額	同上價格	養蠶家一戸當		蠶種一枚高
						繭產額	金額	
春蠶	二、六五八・三	二、七七三	二、四三三枚	一、三四八石	六〇、一六二円	四六六	二二・七〇	五五七合
夏蠶	—	一、四八六	一、五七四	六三九	三二、六二	四三	一四・五四	四〇六
計	二、六五八・三	四、二五九	三、九〇七	一、九八七	八二、七七三	四六五	一九・二二	四九五
								二〇・四六

(3) 稚蠶共同飼育狀況

個所數	共同飼育戸數	經費	補助金	蠶種 立枚數	收繭量	蠶種一枚 當收繭量	共同飼育一戸當 收繭量	經費
五ヶ所	九戸	四三・〇〇 円	二九五・〇〇 円	一六三枚	八石	五四三 合	八九八 合	一・二八 円

(4) 繭共同販賣狀況

春		夏		秋		計	
販賣量	價格	販賣量	價格	販賣量	價格	販賣量	價格
一、二四石	五、〇六 円	四九六石	一六、七三 円	一、六四〇石	六七、八四 円		
石當平均價格		石當平均價格		石當平均價格		石當平均價格	
四五 円		三 円		三 円		三 円	

(5) 家蠶絲及蠶種製造狀況

家蠶絲		蠶種	
製造戶數	生產額	價格	製糸家一戶當
二八九戶	八四四圓	二五三〇	三〇〇
			八・七〇圓
製造者數	製	造	收
	春蠶種	夏蠶種	秋蠶種
	二、六三〇枚	—	五〇〇枚
			三、一三〇枚

(6) 桑苗生產數

接木		實生	
生產戶數	魯桑	赤市	市平
四戶	三六、九五六本	—本	—本
			八、四〇〇本
			八、四〇〇本
			—本
			二四四、七五六本
			四六、〇〇〇本
			七三、七五六本

(7) 乾繭器設備狀況

所在地	所有者	乾繭場數	一回入繭數	對一日乾繭量	乾繭焚置型式名稱	直接熱別所面積	設立年
溫泉里	牙山郡農會	一ヶ所	三二石	六三石	炭火式	直接熱	七三甲 大正十年

(8) 蠶具共同購入狀況

購入人員數	蠶具種別數量									
	蠶箔	蠶架	蠶網	蠶簇	蠶座紙	乾濕計	庖	丁		
二〇八人	三、四九〇枚	一、二二六ヶ	一、四〇七枚	—	一五、〇〇〇枚	一五	—	—		

二、棉作

(1) 陸地棉作

耕作反別	耕作戸數	生産量	使用途別		生一戸當額	收一反當高
			家用	販賣數量	同上價格	
五二・〇〇町	四、九八	六七、四七六斤	四〇、一〇一	六七、三七五	一一、五四二円	二三斤
						二九斤

(2) 模範作圃

個所數	面積	積生産量	一反當收穫高	成績ノ概況
五	八・二七町	一四、四九三斤	一七五斤	良戸

(3) 指定里洞

設置場所	農家戸數	棉作戸數	同上面積	收穫高	一反當收穫高	成績ノ概況
排芳面州出里	七〇	七	一一・〇二町	一五、九六三斤	一四五斤	良
道高面柿田里	一三〇	九	一三・〇五町	一八、二六八斤	一四〇	同

一三、畜産 (昭和三年末)

(1) 家畜家禽

イ 牛

飼養戸數	現在頭數		出產		斃死	撲殺	屠殺
	牝	牝計	牝	牝計			
四、三九三	七五三	三、七四三	四、四九五	三、五三三	五五六	九〇九	三九
							一、〇九四

ロ 馬類及羊

飼養戸數	馬		計	驢	騾	羊	
	牝	牝				山羊	綿羊
一五	二	四	一五	四	二	二五	二

ハ豚

飼養戸數	在來種		改良種		出產		斃死撲殺屠殺
	牡	牝	牡	牝	合計	合計	
二、四九四	九〇	一、〇〇一	五八五	七四七	三、〇三二	九六六	一、四四五
						二、四三二	
						二九	一
							一、五三五

ニ鶏

飼養戸數	在來種		改良種		合計	飼養家一戸當平均羽數
	雄	雌	雄	雌	合計	
四、一七七	二、六二九	五、六三四	八、二四三	一、八九〇	三、八七六	五、七六六
						二四、〇〇九
						三・四

(2) 畜牛の賣買

(3) 種 牛

種 牛				種 牛			
道 有 面 有 計	道 有 組 合 有 計	種 付 數	平均一箇年種付數	道 有 面 有 計	道 有 組 合 有 計	種 付 數	平均一箇年種付數
五二	五二	一	三六	五二	五二	二、二三〇	四四
溫 陽 市	溫 泉 市	溫 泉 市	溫 泉 市	溫 陽 市	溫 泉 市	溫 泉 市	溫 泉 市
入場頭數	成 牛	犢	計	賣 買 總 額	最 高	最 低	平 均
一、二八九	二四七	一四九	三九六	一七、六〇七	七・五〇	二・五〇	四・四四
五、〇七六	七八〇	八四九	一、六三五	六三、六六六	六六・三〇	二一・三〇	四三・七〇
三〇	六	一	六	二五〇	一	一	一
六、三九二	一、〇三三	九九四	二、〇二七	八〇、五二三	一	一	一

朝鮮種

[illegible]

(5)
養

飼養戸數	飼養箱數	採蜜	採蠟
在來種改良種	計	斤量價格	斤量價格
一三戸	二〇一箱	一、五三〇斤	三六五斤
	五四箱	一、二五四円	二四円
	二五五箱		

(6) 畜産物

一四、林 業 (昭和三年末)

(1) 林野面積

種 別	產 額	
	數 量	價 格
牛皮(改良乾皮)	三、四三斤	一〇、六三円
牛 骨	一六、二六八	二二
牛 脂	二、九七	二三
豚 毛	二五四	元
豚 脂	三七	七
種 別	產 額	
	數 量	價 格
蜂 蜜	一、三九斤	一、二六円
蜜 蠟	三六	二二
牛 乳	二四六	二三
合 計	一	三、六二

林

種別	成林地	稚樹地	未立木地	計
國有	七、五四・一五	六、〇七・一〇	二、四三〇・三三	一六、〇二・五七
民有	五、三四・五〇	四、六八五・一〇	一、五三七・二六	一一、五三六・八六
合計	一二、八八・六五	一〇、七六三・三〇	三、九六七・四八	二七、五四八・四三

區別	植栽面積	樹種別植栽本數(本)						
		クロマツ	カラマツ	テウセ ンマツ	ク リ	クヌギ	ヤマハ ンノキ	計
面有林	一八七 _町	二五、五〇〇	四、五〇〇	—	—	一五、二〇〇	二九、五〇〇	四六四、二〇〇
學校林	三	一四、〇〇〇	六、七五〇	—	五〇〇	—	—	二、二五〇

私有林	
合計	
八三六	七四、九〇〇
一、〇五四	九八四、四〇〇
二四、七〇〇	二九、二〇〇
一、〇〇〇	一、〇〇〇
一八、〇〇〇	一八、五〇〇
一四八、一〇〇	三〇四、三〇〇
二二七、一〇〇	二四六、一〇〇
一、三七九、一〇〇	一、八六四、五五〇

(3) 苗圃

區別	苗圃數	面積(坪)		生産		苗木		木數		(本)
		全面積	施業面積	クロマツ	カラマツ	クリ	クヌギ	ヤマハシ	計	
私設	ヶ所 四	二、四四〇	一八、三〇〇	九六四、〇二五	六七三、四五九	二、六八三	四一〇、六七六	一四、六三〇	二、〇六五、四五三	

(4) 林産額

種別	數量	價格	種別	數量	價格
用材	一六、七四 _{尺ノ}	五〇、二〇三 _門	藥草	二、六七〇 _貫	四八四 _門

薪炭材	枝葉	柴草	木炭	種實
四六〇、九四零	三七六、四二〇	三、二七三、九九五	五八、三九〇	七六五
一八、四三七	二、二九二	八四、四九	九三四	一五、三四
染料	五倍子	漆液	計	
二九五	二、二〇〇	五〇		
七五	三八	四〇〇	一八一、八五七	

一五、水 産 (昭和三年末)

(1) 漁業者漁船及漁具數

種別	漁業者	漁船數	漁具數
內地人	戶數 戶 人口 人	漁業養殖 隻 水產製造 隻 運輸其他 隻 計 隻	統數 隻 價格 円

(3) 漁業別漁獲高

價 數 格 量	區別 種類
八二〇 二〇〇 貫	鰯
二五二 一、六四〇 貫	鰹
八五 五〇〇 貫	鰯
二九 一〇〇 貫	鱈
五、七八五 二四、四七〇 貫	鱈
— —	白魚
六〇 三、四〇〇 貫	蟹
— —	ダカン
二四、二九 一八、七八 貫	雜魚
九、二九四 四九、〇二六 貫	合計

(2) 主要漁獲物

朝鮮人 計	朝鮮人
三三	三三
二〇	二〇
八	八
—	—
八	八
九	九
三、三三	三、三三

漁業種別	出漁船數	乘組人員	漁獲高	漁業季節	主要漁場
鯨 網	六隻	一七人	四、九〇〇	自四月至十二月	牙山灣
鯨 網	四	八	一、五〇〇	同	同
舉 網	二	四	五〇〇	同	同
達 網	二	四	八〇〇	同	同
弓 船 網	二	三	三六	自二月至十二月	同
延 網	一	四	七〇	同	同
捕 防 網	二	二	一六	自三月至六月	同
柱 木 網	四	八	一五〇	自四月至十二月	同
掛 釣	三	五	九、二九四		
計					

(4) 水產製造高

素		食		乾		鹽		用		藏		品	
製品數量	價	製品數量	價	製品數量	價	製品數量	價	製品數量	價	製品數量	價	製品數量	價
三〇	貳	四六	貳	五〇	貳	八五	貳	八〇	貳	一、二	貳	一、二	貳

一六、商工業 (昭和三年末)

(1) 會社

名稱	位置	創立年月	營業種別	公稱 資本金	拂込 資本金	積立金	借入金	貸付金
溫陽電氣 株式會社	溫陽面 溫泉里	大正十五年十 一月二十五日	電燈電力ノ 供給並業務	五、〇〇〇 円	三、五〇〇 円	一 円	三七、五〇〇 円	—

(2) 工場

名稱	位置	工場主名	創業年月	工場坪數	從業者數	資本金	種類	數量	價格
新雲里	靈仁面	柳冀暎	大正十三年十月	七坪	四八	三、〇〇〇圓	玄米	八五石	三、三三〇圓

(3) 市場

市場名	所在地	經營者	開市日	開市日	農產物	水產物	織物	畜類	其他雜品	計
溫陽市	溫陽面	溫陽面	七陰一六	五七、五〇〇	二五、一〇〇	三、九〇〇	三七、七〇〇	九、五九〇	二五、七六〇	
溫泉市	溫泉面	同	七同四九	一〇八、三〇〇	六四、五五〇	九九、五〇〇	四九、五五〇	一〇、五九〇	四五、四七〇	
屯浦市	屯浦面	屯浦面	七同二七	一七、五〇〇	七、五〇〇	九、五〇〇	二八、〇〇〇	六、〇〇〇	四三、三〇〇	

(4) 工 產 物

種 類	生 產			種 類	生 產		
	戶 數	數 量	金 額		戶 數	數 量	金 額
綿 絲 布	二〇九 戶	一、五六三 疋	二、六五〇 圓	麻 布	七三〇 戶	一、二〇〇 圓	三、六〇〇 圓
	八八四	一、五六三	四、七五二	苧 布	四五一	四九	三四五

合 計	龍 虎 院 市	新 昌 市	仙 掌 市	牙 山 市
鄉 道 邑 新 君 仙 牙 靈 山 高 內 昌 德 掌 山 仁 里 面 里 面 里 面 里 面 里 面	道 高 田	新 昌 面	仙 掌 面	靈 仁 面
七 同 七 同 七 同 七 同	三、八	二、七	四、九	三、八
二、三、六五四	九三二	二、一〇〇	二、一三三	一、五〇〇
一〇三、二八八	二五六	七〇〇	四、九八三	二〇〇
二六、〇九九	一、八〇〇	一、五〇〇	五〇、八七九	二〇、〇〇〇
九五、九八四	一七〇	四五〇	五、二四	一〇〇
三〇六、六三五	八六三	三〇〇	六八、九二三	五〇〇
九四四、六四〇	四、〇一〇	五、一五〇	二五、一一〇	三、五、八〇〇

絹 布	交 織 布	陶 磁 器	金 銀 細 工	双 物	眞 鍮 器	其 他 金 器	屬 製 品	指 物	挽 物	朝 鮮 木 履	其 他 木 製 品
五元	二	二	二	五	一	二	九	一	一	一	〇
三六七	八,000	一,000	三,100	三,100	八三〇	一,100	二五〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,五〇〇	三,〇〇〇
二,九六	五,100	二,五〇〇	一,四〇〇	一,四〇〇	一,四二	三〇〇	七五〇	二,四〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇
莞 草 筵	改 良 筵	改 良 叭	繩	布 帛 加 工 品	養 蠶 具	車 輻	藥 酒	濁 酒	酢	麴	麴 子
二,三六	六二〇	二,三七三	六,三九七	二,五〇〇	二七〇	二	一九	一九	一,二〇〇	一,二〇〇	一,八八
四,三九	三,一四〇	二〇七,八八三	三四四,〇三八	三八,〇〇〇	四,八九〇	二〇	一四六	六,五七九	三	三	三五,〇〇〇
八,七二八	四七二	四五,七三六	六五,三六七	一九,〇〇〇	四八九	一,六〇〇	一一,六八〇	一九七,三七〇	三〇〇	三〇〇	七五,〇〇〇

一七、振興會 (昭和三年)

蜂 蜜	菓 子	胡 麻 油	胎	干 麵 類	其 他ノ 穀 粉	蕎 麥 粉
二六	五	三、五〇〇	八九	九	一、九五〇	一
二二三	四、五〇〇	六〇	二、五〇〇	二、〇〇〇	二、四〇〇	一
一、二七八	九、〇〇〇	八、六〇〇	三、〇〇〇	二、四〇〇	一、九二〇	一
合 計	豆 糟 及 油 糟	苺 麻 子 油	荳 油	蜜 蠟	牛 豚 脂	靴
二八、二三	五	一七五	四、一〇〇	二五	二五	一
二五七、六七九	九七〇	七五	五三〇	五三	五三〇	三〇
六六一、四四	二九二	一三、五〇〇	七四、一〇〇	一四〇	三二八	三〇〇

一般振興會			指定振興會			計			面當振		郡振興會聯合會	
會數	役員數	會員數	會數	役員數	會員數	會數	役員數	會員數	興會數	會數	經一ヶ年費	
五六	三九	三五九	一七	二三	一二三	七三	四三	四七二	六	一	三六	四

一八、交 通 (昭和三年)

(1) 自溫泉里、至各地里程

地 名	里 數	地 名	里 數
溫 陽 邑 内	〇・三 ^里	新 昌 邑 内	一・三 ^里
牙 山 邑 内	二・〇	白 石 浦	三・三

(2) 道、郡廳間の距離

六里二十町	陸路
三十哩四	汽車路
	水路

天	屯	洪	仙
安	浦	城	掌
三・三	五・三	一・六	三・六
公	禮	成	平
州	山	歡	澤
一五・九	六・三	七・八	七・六

(3) 道路

天洪溫平公溫	路 線 名	等級	主要經過地	郡內 延長
安城泉澤陽				
間 間 間		二 三 等外	溫泉里 牙山、白石 浦屯浦	七、二 七、三 二、〇〇
成屯浦歡	路 線 名	等級	主要經過地	郡內 延長
自溫泉里				
自屯浦				
自溫泉里				
自溫泉里				
間 間 間		三 等外 同	曲橋里 三巨里 驛村里	一、〇〇 五、〇三 二、一八

(4) 鐵道

京南鐵道忠南線	線 名	郡內起點驛	郡內終點驛	哩 程
細橋停留所				
仙掌驛				
一六八				

(5) 自動車定期運轉區間

經營者	區間	經過地	里程
柳 冀 咲	溫 驛 村 泉 松 岳 面 里 溫 貢 稅 泉 里 仁 州 面 里 溫 屯 泉 浦 里 永 松 友 吉 (溫 陽 館)	溫 陽 里 (鹽 峙 面) 鹽 星 山 牙 山 鹽 星 浦 白 石 浦	二、二 里 四、七 六、一 五 九、一 六

(6) 陸上運搬具

自動車	人力車	荷車	荷牛車	荷馬車	自轉車	合計
七 臺	一〇 臺	六 臺	二四 臺	一 臺	五八 臺	八六 臺

(1) 郡農會

役職員數		歲入 (圓)	
人	會費	經常部豫算	臨時部豫算
		使用材料及雜收 手數料收入	繰越金補助金 雜收入 借入金 臨時部計
四五	二二、〇五〇	一、九五九	一四、四六三
		一四、六五五	三、一〇〇
		二、六九五	四、六六六
		一、五〇〇	一一、九六一
		二六、五七二	

會員數									
歲出 (圓)									
經常部豫算					臨時部豫算				
事務費會議費		事業費基本財產造會費道農雜支豫備費			營繕費			借入金費臨時部計	
管理費取拔費會費出		經常部計							
歲出合計									

三、八〇〇	二、九七	三八二八、四三	七五	二五	八四	五九	八〇〇二四、九五六	一、五〇〇	一〇〇	一、六二〇	二六、五七六
人											

(2) 畜産同業組合

役職員數	歲入										歲入合計
	組合費	手数料	地方補助	畜産聯合會補助	借入金	過年度收入	繰越金	耕牛渡代價金	雜收入		
六人	一、七六	二、八六〇	二五	五九八	四〇〇	四三	七三	四	一、三二七		八、二九三

組合員數	歲出										歲出合計
	事務費	事業費	負擔金	借入金費	基本財産積立金	會議費	雜支出	豫備費			
四、四三〇	一、一〇七	四、九七九	七二八	四二〇	五〇	五六	三九〇	五九			八、二九三

(3) 森林組合

役職員數	歲入 豫算						歲入合計
	組合費	繰越金	補助金	過年度收入	雜收入	手数料	
四 人	六、二六	七五〇	一、〇三六	九〇〇	六五	三〇〇	八、九七七

組合員數	歲出 豫算						歲出合計
	事務費	事業費	會議費	森林組合聯合會負擔金	豫備費		
六、三七九 人	一、〇四四	七、二五三	一三三	一三三	四六		八、九七七

二〇、官公署 (昭和四年五月)

二、職 員

(昭和四年五月末日)

(1) 郡

郡 廳	一
面 務所	三
學 校組	三
水 利組	二
警 察署	一
同駐在所	10
同出張所	一
土木管 事務所	一
穀物 検査支隊	一
金 融組	三
同出張所	一
地方 法院出張所	一
郵 便所	四

郡 守	一
郡 屬	三
郡 技手	六
產 業技手	一
地 方書記	三
測 量手	一
雇 員	一
合 計	六
計	八
計	一七
計	三五

(2) 面

三、財政

(1) 國稅 (昭和三年度)

地 所 營 得 業 稅			稅 目	金 額	稅 目	金 額
地 稅	所 稅	營 稅		一三〇、八六四	酒 稅	一、〇三四
				七八四	計 稅	八、四四七
				一、九二六		一三一、九三三

面 長	會計員	書 記	區 長	合 計
三	三	一	四	二四三
			一	
			一六七	

(1) 戸、税外收入

税目	金額	税目	金額
森 林 收 入	七二 円	徴 罰 及 沒 收 金	七〇 円
驛 屯 賭 收 入	四、九二	土 地 拂 下 代	三七、三七
官 有 物 貨 下 料	四三		

(2) 地 方 税 (昭和三年度)

税目	金額	税目	金額
地 税	六、六九 円	漁 業 税	三 円

(3) 面 豫 算 (昭和三年度)

歳 入 (圓)		歳 出 (圓)	
科 目	金 額	科 目	金 額
賦 課 金	七四、六六	給 與	五三、〇三三
財 産 收 入	五、一五九	事 務 所 費	七、三七二
使 用 料	二、五八	木 費	二、九四九
手 數 料	八三〇	勸 業 費	三三、二二四
屠 畜 稅	一、七五九	屠 場 稅	二、六六八
屠 場 稅	三、三三〇	不 動 產 取 得 稅	一〇、〇二四
戶 車 輻 稅		計	一〇一、三五四

交 付 金	雜 收 入	前 年 度 繰 越 金	補 助 金	寄 附 金	財 產 賣 却 代	過 年 度 收 入	歲 入 合 計
-------------	-------------	----------------------------	-------------	-------------	-----------------------	-----------------------	------------------

六、九七	六、〇一五	一、五〇〇	八、〇〇四	七〇〇	一、六八四	一、三三五	一〇九、四八六
衛 生 費	警 備 費	基 本 財 產 造 成 費	面 事 務 所 建 築 積 立 金	面 職 員 退 職 及 死 亡 給 與 積 立 金	橋 梁 架 設 積 立 金	財 產 管 理 費	雜 支 出
豫 備 費	補 助 金	寄 附 金					

二、五八	九七	七、〇三	二、四〇〇	二、〇〇七	六七〇	九二六	一、三三〇
三、一四三	二〇〇						一、七一三

843 學校費豫算（昭和四年度）

歳出合計	109,458

歳入（圓）			
科目	金額	科目	金額
賦課金	2,435	補助金	45,954
使用料及手数料	33,648	寄附金	14,000
財産収入	2,580	過年度収入	2
雑収入	399	歳入合計	93,493
繰越金	5,459		

歲出 (臨時部) (圓)			歲出 (經常部) (圓)		
科目	金額	科目	金額	科目	金額
評議會費	一九二	財產管理費	五三五	評議會費	一九二
選舉費	三〇	國庫納金	四三三	選舉費	三〇
普通學校費	六二、〇三	學校費取扱費	一、三三七	普通學校費	六二、〇三
實業補習學校費	三、九五五	雜支出	四五〇	實業補習學校費	三、九五五
實科教育費	一、五八〇	豫備費	一、三五〇	實科教育費	一、五八〇
基本財産造成費	一、七八	經常部計	七、六四〇	基本財産造成費	一、七八

(5) 學校組合豫算 (昭和四年度)

普通學校建築費		一、九、〇三三	臨時部計	二、一、八五三
教員宿舍建築費		二、三六〇	歲出合計	九三、四一三
積立金		四五〇		

(5) 學校組合豫算 (昭和四年度)			
歲入 (圓)		歲出 (圓)	
科目	金額	科目	金額
經常部		經常部	
賦課金	三、九三三	事務所費	一、〇三八
授業料	四三〇	會議費	四六
屠場使用料	三、五四〇	教育費	八、三六八

臨時部					臨時部				
線越金	寄附金	國庫補助金	地方費補助金	其ノ他ノ收入	屠場費	其ノ他ノ支出	經常部計	八、〇〇六	八、〇〇六
修繕費	組合債費	其ノ他ノ支出	臨時部計	歲出合計	費	支出	計	二、四七	二、四七
100	100	1,100	1,300	1,371				二、三九	二、三九

臨時部計	歲入合計	賦課金一戸當平均額
	二十五圓九十三錢	
	生徒一人當經常教育費	
	五十九圓七十錢	

(6) 水利組合豫算 (昭和四年度)

イ 溫陽水利組合豫算

歲入 (經常部) (圓)				歲入 (臨時部) (圓)			
組合費	使用料及 手数料	雜收入	財產收入	繰越金	雜收入	過年度 收入	臨時部計
六〇、八四七	三六三	九五	一四四	六、四四九	四、八九〇	一〇〇	一九一
							五、一八一
							六、六三〇
							歲入合計

10,763	794	500	11,057	9,600	234,191	29,400	3,000	4,000	120,121	222,317
--------	-----	-----	--------	-------	---------	--------	-------	-------	---------	---------

(7) 郷校財産豫算（昭和四年度）

歳 入 (圓)					歳入合計
財産収入	雑収入	繰前 越年度 金	過年度収入	補助金	
1,601	7	130	110	301	11,057

歳 出 (圓)					歳出合計
文廟費	地方教化費	財産管理費	事務費	豫備費	
627	860	453	86	9	2,054

(8) 直接稅負擔額 (昭和三年度)

種別	戶數	人口	負擔額					合計	
			國稅	地方稅	面賦課金	學校費賦課金	學校組合費		
內地人	二四	八三四	四、七五五	四八〇	九、三三三	六六〇	七、二七三	八五〇	三、五二九
朝鮮人	一四、〇五四	七、四六六	一〇三、四八二	四八〇七九、一二三	九八〇六一、六七	一七〇	八、九六一	七四〇	二五二、一八四
外國人	四	一二七	五六四	二〇〇	三九三	二三	二九四	六一〇	一、二五三
計	一四、三四九	三、四七	一一八、四〇三	一六〇八八、七四九	八七〇六九、一八四	六三〇	八、九六一	七四〇	二八八、四二八
右 續									
種別	國稅	地方稅	面賦課金	學校費賦課金	學校組合費	合計			
平均負擔額	國稅	地方稅	面賦課金	學校費賦課金	學校組合費	合計			
合計	二八八、四二八	三、五二九	九、九〇	二、五三	〇四〇	三、五二九			

	一戸當	一人當	一戸當	一人當	一戸當	一人當	一戸當	一人當	一戸當	一人當	一戸當	一人當
内地人	六九、八八三	二八、一四九	四三、一四七	二、二〇五	三、九八三	八、八二六	—	—	—	—	—	—
朝鮮人	七〇三九	一、三〇七	五、六三九	一、〇〇九	四、三八四	七八五	六三七	—	—	—	—	—
外國人	二、二六五	四、八三三	八、五四八	三、三六三	六、四〇四	二、五三八	—	—	—	—	—	—
計	八、〇三四	一、四八六	六、二〇〇	一、一二八	四、八三三	八七二	六三六	一二三	二四五	〇四四	三〇、一四九	三、六三六

金融狀況 金融組合

組合名	組合員數	組合員 出資金	拂込濟 出資金	政府 下附金	諸 金準	預り金	借入金	貸出金	剩餘金
牙山	一、一六四	一四、九〇〇 円	三〇、一〇六 円	一〇、〇〇〇 円	三、四、四〇〇 円	一四、四三三 円	一六、七九三 円	一三、九〇三 円	四、六五五 円

貯 金 (△印ハ圖體ノ貯金ヲ示ス)

靈仁支所 仙掌 計	内 地 人		朝 鮮 人		外 國 人		計
	人員	金額	人員	金額	人員	金額	
四七七	—	—	—	—	二六、八二五	二七、四〇三	五六、三二四
九九六	一三、九八〇	一〇、六八二	二、〇〇〇	四、九五〇	四一、〇一九	七五、四二二	一、〇〇三
二、六三七	二六、六八〇	四〇、七九〇	二、〇〇〇	四、四〇〇	二二、二六七	二九、六〇七	二九四、四八〇
							九、一七四

牙 靈 仁 支 所 山 計	内 地 人		朝 鮮 人		外 國 人		計
	人員	金額	人員	金額	人員	金額	
三四	四四、六三三	—	二、一三九	七、八二七	三	二五四	二八、四六四
三七	六、四一八	—	一、一〇〇	二六、九五九	—	—	三六、八三五
四五	四、八三〇	—	九七六	二〇、四〇七	二	三七	四、〇一九
四〇六	五六、六三一	—	一、一六九	三六、一五三	五	二九二	一八六、三〇八
			△ 四、二六六	二九、三六六			
			△ 一、一〇〇	七六、九五八			

二三、溫陽溫泉

(1) 溫陽溫泉位置

溫陽溫泉は忠清南道牙山郡溫陽面溫泉里（牙山郡廳所在地）に在り京釜線天安驛（京城驛より南約九十七軒）より西方約十四軒の地點に位し天安及廣川間を連絡する京南鐵道（京南鐵道株式會社經營）の便を有する鐵道の便によれば京城より僅に約三時間（天安、溫陽溫泉間二十九分、外に自動車の便もあり）にして溫泉場に達する。

(2) 溫陽溫泉沿革

溫陽溫泉里附近より東方天安郡界に至る地域は百濟時代には湯井郡（新羅時代に湯井州と呼ばれし事あり舊溫陽郡沿革参照）又高麗時代には溫水郡と呼ばれし地なり（東國輿地勝覽十九に據る）これらの地名は恐らく現今の溫陽溫泉に因みしものなるべく、これに

據れば本温泉の存在は百濟時代既に知られ居たりしものと思はる。

舊建物は李朝太祖の建築にかゝり大院君これを重修せしものなりと傳へらる（京南會社直營後大部分取除く）

尙温泉場の西隣には李朝の築造にかゝる溫宮と稱する宮殿ありしも文祿の兵燹に烏有に歸せりと云はる。

(3) 溫陽温泉由來

溫陽温泉は前述の如く百濟時代既に知られ居たるものと思はるゝも、そは地名より推したる考證にして、恰く世に知られたるは今より五百年前、高麗朝時代なるべく後、李朝時代に至り殊に著名となり。世宗、世祖、顯宗、肅祖、英祖、正祖王の如きは屢々之に幸され、從つて其遺蹟や國碑が溫泉場附近に夥多遺されてゐる。

(4) 地 形

温泉場は海拔二十米未滿の狹き平地に在りて西側は北方に緩流して曲橋川に合する温泉川に限られ四近は海拔百五十米以下の丘陵起伏しその地形單調である。

(5) 地 質

牙山郡の大部分は朝鮮半島を北東、東西に斜斷せる一の花崗岩帶中にありて主として前寒武利亞系の變質岩類及これに貫入接觸し明かにこれより若き斑狀黑雲母角閃石花崗岩より成る、この花崗岩は洪城、禮山及唐津の三郡に跨りて分布せる黑雲母微斜長石花崗の異相にして保寧舒川及青陽各郡に擴衍せる下部珠羅紀層より古き時代のものなりといふ。

(6) 温 泉

湯脈、源泉によつて左の如き差あり。

源 泉	水面に於ける(泉温攝氏)	氣 温 (攝氏)	氣 壓 (耗)
K	四六・〇	一六・五	七七・〇
M	四九・五	一五・〇—一六・〇	七七・〇—七七・七
N	五〇・〇	一五・五—一六・五	七七・〇
A	四三・〇	一九・〇	七七・二・七

(7) 泉 質

各源質を通じ無色無臭にして少し鹹味あり、常温にて弱アルカリ性を呈すれどA及Nよりの試料は水一珎中に次記の鹽類を含有する溶液とその性質同様なり。

A

N

鹽 化 加 里

一五・一

九・七

鹽化曹達	一七・〇	一七・一
硫酸石灰	八・五	一〇・九
硫酸マグネシウム	四・五	三・〇
硫酸曹達	〇・六	〇・三
重炭酸曹達	一四二・五	一四四・二
合 計	一八八・二	一八五・二
メタ珪酸	七一・〇	七四・五
累 計	二五九・二	二五九・七

この外多少の『ラヂウムエマナチオン』をも含有する。

(8) 湧 出 量

湧出量は一分間〇・三立方米即一時間約一・六キロ立(九石)と看做して大過なし(京南會社直營後の湧出量は一日一萬數千石)

(9) 氣候と溫泉との關係

氣壓と湧出量との間には一般に多くの溫泉に於て然るが如く密接なる關係ある事明瞭である。即氣壓低き時は高き時に比し湧出量多し尙降雨に際し溫泉の混濁泉溫の低下その他泉質變化等を來す事なきが如し。

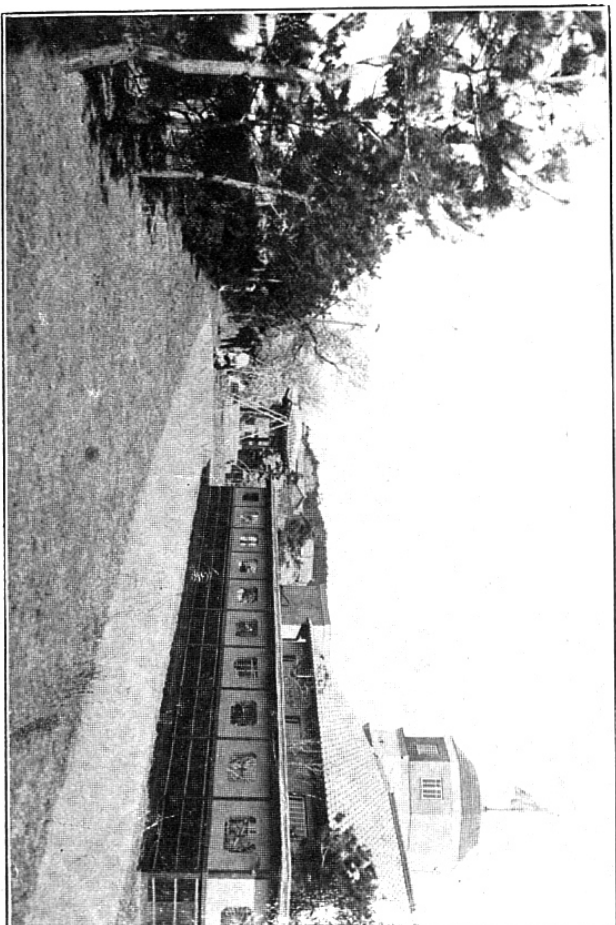
(10) 地質構造と溫泉との關係

この地の地質構造線が特に溫泉を誘導し居るのは是れ恐らくこの地の地質構造線が溫泉の上昇路として特別の性質を有せるか熱源が特にこの地に於て比較的淺き所に存在せるか

又は地下深所より温泉を導く他の特種の通路として湧出するかに至れるがためであるべし
『以上主として朝鮮總督府地質調査所、調査書に據る』

二四、溫陽溫泉案内

溫陽溫泉は最近十數年間溫陽溫泉株式會社の手によりて經營されたりしも施設不備にして、天興の靈泉を開發し廣く世人に紹介するに至らざりしを大正十五年十一月一日京南鐵道株式會社これを譲り受けるや銳意百般の設備を施し、加へて溫陽の發展を促す目的を以て種々なる改良を計畫し爾來一年半施設完成の前提として新湯元の試錐に努めし効空しからず二ヶ所堀進三百尺に達し攝氏五十度の湯が一晝夜、一萬數千石湧出するに至り斯る多量の湯を得る如くなりてより微溫湯元は全部之を廢し専ら此の二口より湧出する湯を使用することゝなせり。



神井碑(正面)と神井館

(1) 神井館由來

京南鐵道株式會社の改築したる溫泉場の總稱を神井館と命名せるは、湯元附近に國の造營物として今尙ほ保存され居る神井碑の碑文に、『天順八年春二月李朝世祖南遊に際し驛を溫泉郡溫泉に駐む、居ること四日、神井忽ち湧て庭に盈流す世祖見て大に之を異とし命じて之を鑿たしめしに迸然として溢出す、其冷きこと雪の如く其清きこと鑑の如く湯は溫にして而して泉は冷かなり天顏悅豫扈從相顧みて色を動かさざる莫し允に上瑞となし八道表を上りて賀を稱す』とあり同會社に於て新湯之の試錐工事に着手中地下約十五尺にして僅か三尺を隔てゝ一は冷泉、一は溫泉相隣して湧出するに遭ひ神秘なる碑文が誇張の言でなき事判明、事實に因みて神井の二字を館名に冠したるものなり。

碑は現に官有物として牙山郡守の管理に屬し永久に保存す。

(2) 温陽温泉定量分析

温陽温泉は弱鹽類泉に屬し無色澄明にして殆んど臭味なく反應中性なれども之を煮沸すれば微かにアルカリ性反應を呈し比重は攝氏十五度に於て一・〇〇〇四を示す、而して定量分析による毎千分中に含有する固形物總量は〇・二〇六九分にして其各成分の量左の如し。

硅	酸
硫酸カルシウム	〇・〇七四〇グラム
硫酸マグネシウム	〇・〇〇六七グラム
クロールナトリウム	〇・〇一二三グラム
重炭酸ナトリウム	〇・〇二七六グラム
	〇・一五八四グラム

炭酸カリウム

〇・〇〇三九グラム

右の他微量の鐵及『アルミニウム』イオンの存在するあり。

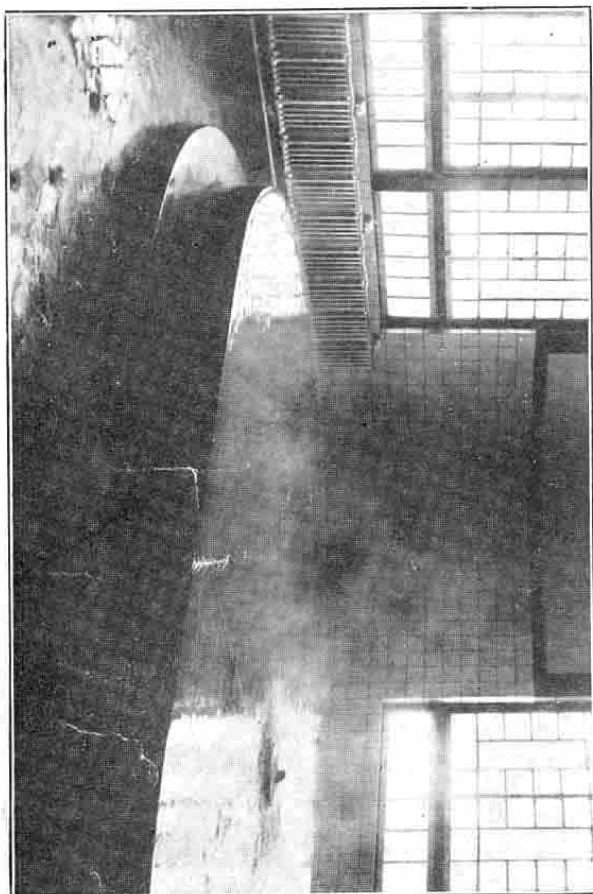
(3) 溫泉醫治効用

外科

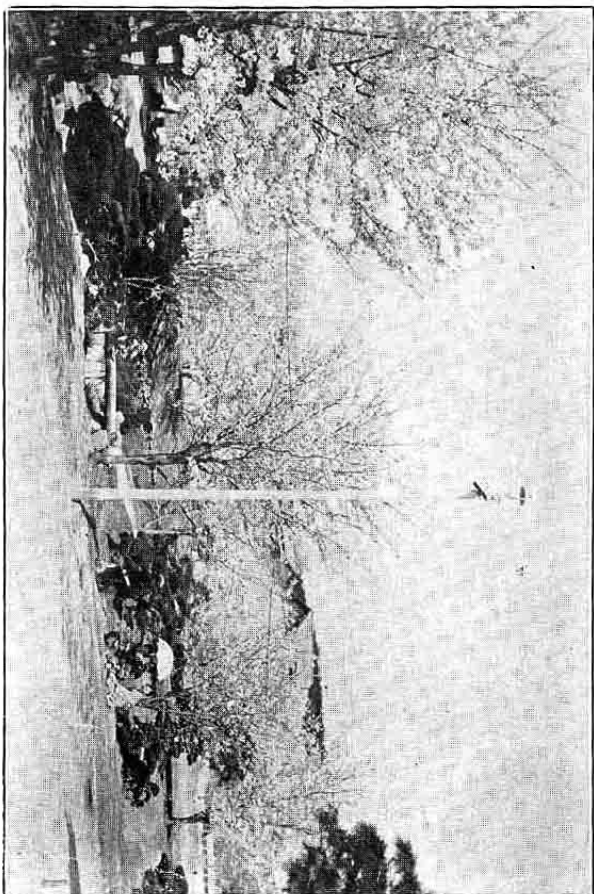
筋及關節婁麻質斯、慢性濕疹、歇私的理脊髓勞、半身不隨、婦人生殖器慢性諸病線

内科

胃加答兒、胃痛、下痢腹加答兒



大 共 同 浴 場 の 一 部



神井館の内庭の一部分

二五、温泉神井館案内

(1) 本館

本館内には男女別大共同浴場、大休憩室、専用貸湯、食堂、(簡易食堂、内食堂)球戯基將棋室、賣店、酒場、兒童遊戲室等の設備完備し浴客をして倦むを知らしめざる細心の注意を施しあり。

(2) 旅館部

旅館部は宿泊料と室料制との二様になつて居り數人同宿の場合には割引の規定あり、浴場は旅館部專屬の温泉内湯あり又共同浴場へも自由に入浴することを得る特典あり

(3) 附屬遊園地

神井館より西南約一哩を隔てし所に周圍四十四町、面積約百町歩の大貯水池一名辨天池

其他の川魚によりて調進する料理は神井館の最も誇りとするものゝ一なり、就中公魚は朝鮮總督府水産試験場から産卵の分譲を受け同會社に於て辨天池に放養したるものにして鮎と等しく一年魚であり淡泊にして美味なり。

ハ、温泉みやげ

温泉特製の菓子、果物、公魚の佃煮、繪葉書其他文化寫眞館室飾等其他地方に於て珍重なる格好の温泉土産は館内賣店に於て販賣し居れり、殊に苹果及梨は曩に皇室に獻上し御嘉納を得たる榮譽を負へり。

(5) 各種料金

四月一日より九月末日まで	午前七時開館	午後十時閉館
十月一日より三月末日まで	午前八時開館	午後九時閉館

A、本館入場料

イ、普通入場料

大人 一回 金二十五錢

小人 同 金十錢

ロ、割引入場料

二十人以上團體 一名一回 大人 金二十錢

同 同 小人 八錢

五十人同 同 大人 十五錢

同 同 小人 五錢

百人同 同 大人 十錢

同 同 小人 三錢

現役軍人小學校兒童幼稚園々兒三十名以上 金五錢